



学校だより
**桜っ子
通信**

校訓
自ら学び
自ら考え
自ら行う

令和5年3月3日

第70号

長崎市立桜町小学校長

野中正樹

まっすぐ かかとならべ パーフェクト達成！

2月28日（火）、凡事徹底の一つとして全校で取り組んできた「まっすぐ かかとならべ」が、なんとパーフェクト達成となりました。すべての子どもたちの靴が下駄箱の真ん中でかかとを揃えて並んでいたのです！お昼の校内放送に続いて、全員の靴がきれいに並んでおり、パーフェクト達成を達成したことを伝えると子どもたちはとても喜んでいました。私は心のどこかで、466人全員の靴が一つ残らずきれいに並ぶことは正直できないのではないかと思っていましたので、とても驚くともに桜っ子の意識の高さに感心しました。

子どもたちには、「靴を並べる場面は学校の下駄箱以外にも、たくさんあること」そして「良い行いは続けていくことで良い習慣となっていくこと」を伝えています。ご家庭でもこの「まっすぐ かかとならべ」を話題にいただき、靴並べが習慣として身に付くようお声かけをよろしくお願いします。

福祉について考えました

2月24日（金）、4年生の子どもたちが、日本赤十字社長崎支部様にご協力をいただき、車椅子体験及び高齢者体験に取り組みました。多くの子どもたちが車椅子に乗ったり、押ししたりするのは初めての経験で、車椅子は少しの段差もとても障害になることや、車椅子の押し方次第では、乗っている人が不安を感じるなどなどを体験を通して学びました。また、視野が狭くなるゴーグルやおもりがついたベストなどを着用しての擬似的な高齢者体験を通して、自分たちには、できて当たり前の方が高齢者の方には、とても難しいことなどが分かったようです。また、子どもたちは、これらの体験活動を通して多くの事を感じ取ったようです。以下は体験を終えての感想の一例です。

車椅子を押すときは、乗っている人がどう感じているか、押し方が変で、相手が迷惑してないかなどに気を付けながら押しました。車椅子に乗っているときは、多少「ガタッ」となることもあったけど、最後まで安定して押ししてくれたので、こんな感じで押ししてもらったら、車椅子に乗っている人達も少しは楽になるんじゃないかと思いました。（〇〇〇〇さん）

ほくは、高齢者体験を通して、高齢の方は、あんなに体が重く感じたり、耳が聞こえにくかったり、目が見えにくかったりしているということを知りました。もし、町のどこかで高齢の方に出会って、苦しそうにしていたり、荷物が重くて困っていたりしたら、何かお手伝いをしてあげたいです。（〇〇〇〇〇さん）

最後になりましたが、このような貴重な体験の場を提供してくださった、日本赤十字社長崎支部様のご協力に心から感謝申し上げます。

まちを美しくする標語 入選

長崎市は、小学生を対象とした「まちを美しくする標語」の公募を行い、63校から656作品の応募がありました。そして、厳正な審査の結果、優秀賞7作品、入賞11作品が選出されました。桜町小学校の子どもたちも応募し、4年生の〇〇〇〇〇さんの作品が見事に入選に選出されました。〇〇さんの標語は以下のとおりですが、大人の私たちには、ドキッとさせられる標語となっております。まさに「大人の背中を見て子は育つ」ですね。

ごみすてる 大人のすがた ぼく見てる

なお、この標語公募は、令和2年度の『小学生による「まちづくり」アイデアコンテスト』における提案を基にした事業であることを申し添えます。

交通指導員さんが決まりました 感謝！

桜っ子通信第66号でお知らせしたとおり、本校前の横断歩道で立哨をしていただく交通指導員さんが正式に決定しましたのでお知らせいたします。学校の近くにお住まいの中山正樹様、山下秀俊様のお二人に桜っ子の登校の様子を見守っていただくこととなりました。3月1日（水）長崎市からの交通指導員の辞令交付を受けて、早速、翌日の3月2日（木）から立哨を行っていただきました。今後とも、末永く、よろしくお願い申し上げます。

桜っ子の皆さん、皆さんの気持ちのいい元気な挨拶で、お二人に元気パワーを届けてくださいね！！